

2025年3月期 決算/会社説明会資料

2025年5月14日

本資料は、最新の業績に関する情報の提供を目的とするためのものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。本資料は2025年3月末日現在のデータに基づいて作成されています。なお、本資料で使用するデータおよび表現等の欠落・誤謬等につきましてはその責を負いかねますのでご了承ください。また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点の当社判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、または約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

TOKAI TOKYO FINANCIAL HOLDINGS, INC.

 東海東京フィナンシャル・ホールディングス

1 2025年3月期決算概況

2 戦略・ビジネスアップデート

1

2025年3月期決算概況

- ・ 2025年3月期決算概況
- ・ 東海東京証券のトピックス / 関係会社のトピックス

営業収益(累計)

前年同期比 ▲3.2%

863億円

〔 1Q: 232億円
2Q: 206億円
3Q: 230億円
4Q: 194億円 〕

営業利益(累計)

前年同期比 ▲10.2%

117億円

〔 1Q: 45億円
2Q: 19億円
3Q: 47億円
4Q: 4億円 〕

経常利益(累計)

前年同期比 ▲10.8%

151億円

〔 1Q: 58億円
2Q: 14億円
3Q: 56億円
4Q: 21億円 〕

親会社株主に帰属する
純利益(累計)

前年同期比 +8.2%

110億円

〔 1Q: 32億円
2Q: 17億円
3Q: 46億円
4Q: 14億円 〕

決算のポイント

【前年度比】

- 2Qと4Qにおける市況急変(株価下落・円高進行)による外国株式フローの減少、及び外貨建ファンド(当社投資持分外)に係る為替換算損の計上を主因に、減収。
～投資家の姿勢は慎重ながら、分散投資による中長期運用の理解浸透もあり総じて冷静。
- ポートフォリオ提案、証券担保ローンの積極的な取上げ、及び資産承継に絡めた保険提案等を継続し、安定収益(投信代行手数料・利息収入等)の拡大に注力。
- 販売費及び一般管理費は横ばい。
- デジタル事業は、「選択と集中」により、不採算事業の整理や減損処理に係る費用と同時に、注力分野への追加投資もあり、期間赤字は拡大。ただし、お金のデザインは黒字化。
- 営業外収益(JV持分利益の増加、投資事業組合運用益の積上げ、他)を加えた経常利益は減益ながら、特別利益(退職給付信託返還益、政策保有株式売却益)を加えた純利益では増益。
- 個人顧客のグループ預かり資産純増額は、市況がボラタイルな中でも、前年度を上回る。

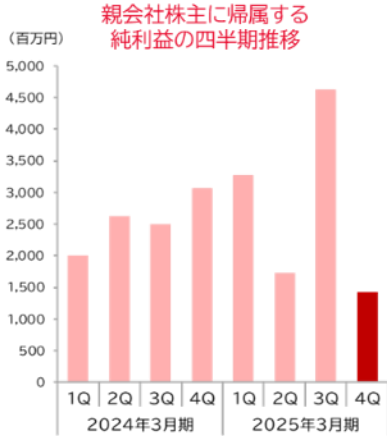
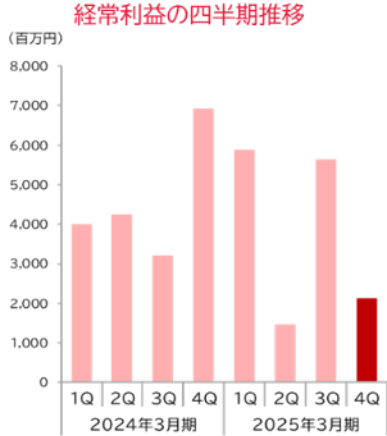
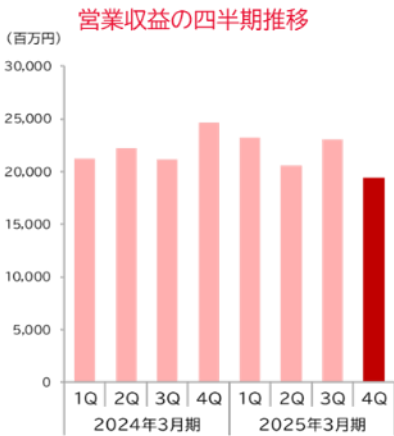
【注】外貨建ファンド(当社投資持分外)に係る為替換算損は、非支配株主持分損益と調整するため、純利益には影響せず。

【前四半期比】

- 3Qの大幅な増収増益から一転、相場の変調を受け、外国株式に係るトレーディング収益の減少、及び外貨建ファンド(当社投資持分外)に係る為替換算損の計上が主な減収要因。
- デジタル事業の先行コスト(のれんの定時償却費を含む)は3Q・4Qとも同程度。お金のデザインは3Qより黒字に転換。

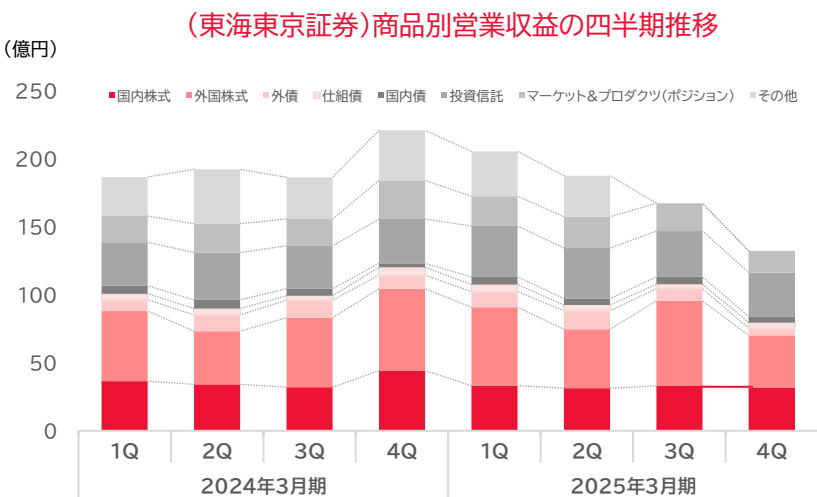
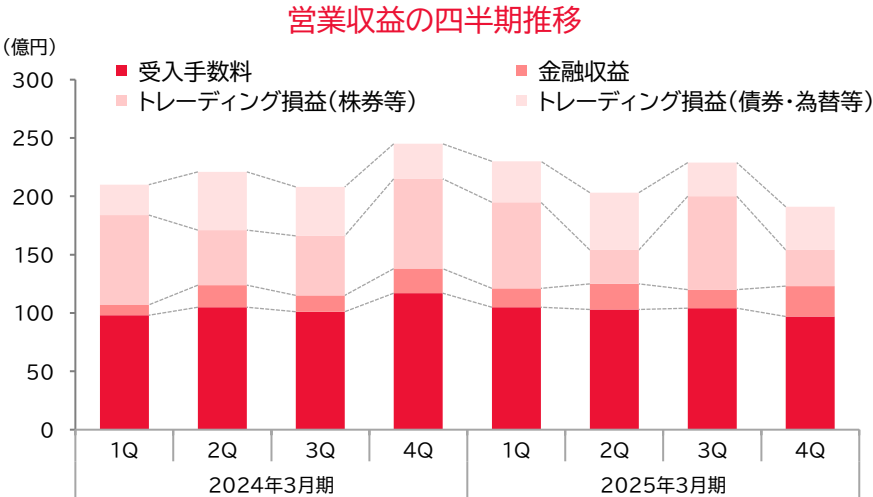
	2024年3月期				2025年3月期				2024年 3月期累計	2025年 3月期累計	前四半期比 増減	前年同期比 (累計) 増減
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
営業収益	21,205	22,269	21,116	24,610	23,203	20,607	23,088	19,428	89,201	86,328	-15.9%	-3.2%
純営業収益	20,615	21,588	20,538	23,949	22,623	19,688	22,528	18,341	86,692	83,182	-18.6%	-4.0%
販売費・一般管理費	17,121	17,840	17,278	19,147	18,053	17,756	17,730	17,902	71,387	71,442	1.0%	0.1%
営業利益	3,494	3,747	3,259	4,802	4,569	1,932	4,797	439	15,304	11,739	-90.8%	-23.3%
経常利益	4,004	4,252	3,210	6,930	5,893	1,467	5,640	2,118	18,397	15,120	-62.4%	-17.8%
親会社株主に帰属する純利益	1,998	2,626	2,498	3,066	3,271	1,731	4,625	1,419	10,189	11,048	-69.3%	8.4%
EPS(円)	8.03	10.55	10.03	12.29	13.06	6.91	18.46	5.66	-	-	-	-
BPS(円)	682.38	695.66	692.49	718.21	716.45	721.52	721.34	723.29	-	-	-	-
ROE(%)※1	4.7	6.1	5.8	6.8	7.3	3.8	10.2	6.1	-	-	-	-
一株当たり配当金(円)	-	12.00	-	16.00	-	12.00	-	16.00	-	-	-	-
配当性向(%)	-	64.6	-	68.5	-	60.1	-	63.5	-	-	-	-
配当利回り(%)※2	-	4.9	-	4.6	-	5.0	-	5.8	-	-	-	-

※1:ROEは年換算 ※2:配当利回りは各期末の株価に基づき算出。また中間期については年率換算値



- 【前年度比】
- 受入手数料は、IPO主幹事獲得に伴う引受手数料の積上げや安定収益拡大の一方、個人による株式売買高の減少により、全体では減収。
 - トレーディング損益は、外国株式フローの減少、及び海外子会社での運用ファンド損益の低下（為替換算損益を含む）が、デリバティブ販売による増収を上回り、減収。
 - 金融収益は、株式受取配当金の増加、及び証券担保ローン受取利息の拡大が貢献。
- 【前四半期比】
- 受入手数料では、3Qに計上した大口の引受・売出し等手数料の剥落を主因に、減収。
 - トレーディング損益は、外国株式収益、及び海外子会社での運用ファンド損益が減少

	2024年3月期				2025年3月期				2024年3月期 累計	2025年3月期 累計	前四半期比 増減	前年同期比 (累計) 増減
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
受入手数料	9,815	10,567	10,148	11,707	10,559	10,384	10,455	9,780	42,239	41,178	-6.5%	-2.5%
委託手数料	4,283	4,039	3,873	5,586	4,212	3,594	3,707	3,599	17,783	15,114	-2.9%	-15.0%
引受け・売出し等の手数料	231	269	397	248	251	214	805	228	1,146	1,501	-71.6%	31.0%
募集・売出し等の取扱手数料	2,009	2,341	1,877	1,953	2,297	2,251	1,778	1,649	8,182	7,976	-7.3%	-2.5%
その他の受入手数料	3,291	3,916	3,999	3,919	3,797	4,323	4,163	4,302	15,126	16,586	3.3%	9.7%
トレーディング損益	10,398	9,777	9,478	10,784	11,001	7,946	11,005	6,952	40,439	36,905	-36.8%	-8.7%
株券等	7,790	4,741	5,193	7,771	7,477	2,981	8,073	3,197	25,497	21,729	-60.4%	-14.8%
債券・為替等	2,607	5,036	4,285	3,012	3,524	4,964	2,932	3,754	14,941	15,175	28.1%	1.6%
金融収益	990	1,923	1,489	2,119	1,642	2,277	1,628	2,696	6,523	8,244	65.6%	26.4%
営業収益計	21,205	22,269	21,116	24,610	23,203	20,607	23,088	19,428	89,201	86,328	-15.9%	-3.2%



（単位：百万円）

	2024年3月期				2025年3月期				2024年 3月期累計	2025年 3月期累計	前四半期比 増減	前年同期比 （累計） 増減
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
取引関係費	3,043	3,144	3,342	3,837	3,762	3,696	3,433	3,576	13,367	14,468	4.1%	8.2%
人件費	8,032	8,739	8,022	9,133	8,223	7,975	8,475	8,180	33,928	32,855	-3.5%	-3.2%
不動産関係費	1,898	1,932	1,942	2,003	1,967	1,888	1,928	1,950	7,777	7,733	1.1%	-0.6%
事務費	2,284	2,169	2,095	2,336	2,107	2,288	2,033	2,281	8,885	8,711	12.2%	-2.0%
減価償却費	839	863	882	849	900	920	900	956	3,435	3,677	6.2%	7.0%
その他	1,022	990	992	987	1,093	985	959	957	3,993	3,996	-0.2%	0.1%
販売費・一般管理費計	17,121	17,840	17,278	19,147	18,053	17,756	17,730	17,902	71,387	71,442	1.0%	0.1%

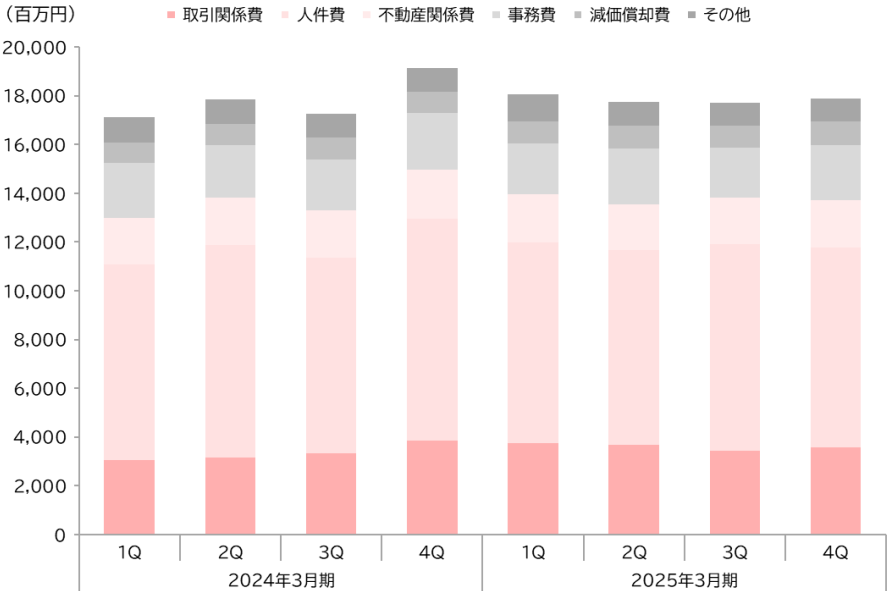
【前年度比】

- 業績連動賞与の減少（人件費）、及びシステム関連費用の圧縮努力により、費用を削減。
- 変動費であるIFA仲介手数料、広告宣伝費・通信情報費（取引関係費）や新規ソフトウェアに伴う減価償却費が増加するが、販管費全体はほぼ横ばい。

【前四半期比】

- IFA仲介手数料やシステム関連費用が増加し、販管費全体では微増。

販売費・一般管理費の四半期推移



- 【前年度比】
- JV7社利益(持分法投資利益)は、日本株・投資信託の他、外貨資産の積上げにより、増益。個人の資金・資産の純増も着実に拡大。
 - デジタル持分出資先に係る投資損益は、戦略的な持分増加に伴うのれんの定時償却額の負担増等、事業の選択と集中による一時費用処理を含め、赤字増加。お金のデザインは3Qより黒字化。
 - VC投資子会社による投資案件のExit利益が積み上がり、投資事業組合運用益が増収。

- 【前四半期比】
- JV7社利益(持分法投資利益)において、外国株式フローの減少を主因に減収となるも、ストック収益もあり、継続して黒字を確保。
 - 一方、デジタル持分出資先のコスト負担により、持分法投資損益は赤字。
 - 海外子会社が保有する海外投資株式に係る受取配当金の計上、及びVC投資子会社による投資事業組合運用益の積上げ等により、「その他」は大きく増収。
 - 営業外損益全体で増収。

営業外損益の推移 (単位:百万円)

	2024年3月期				2025年3月期				2024年3月期 4Q累計	2025年3月期 4Q累計	前四半期比 増減	前年同期比 (累計) 増減
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
営業外収益	740	484	-42	2,252	1,355	-47	646	1,695	3,435	3,650	162.1%	6.3%
持分法による投資利益	66	109	74	255	52	-52	244	-67	506	177	-	-65.0%
その他	673	375	-117	1,997	1,303	4	402	1,763	2,928	3,472	338.6%	18.6%
営業外費用	230	-20	6	124	31	417	-195	16	341	268	-	-21.5%
持分法による投資損失	-	-	-	-	-	5	-5	-	-	-	-	-
その他	230	-20	6	124	31	412	-190	16	341	268	-	-21.5%

上記「持分法による投資損益」に含む提携合併証券利益 (単位:百万円)

	2024年3月期				2025年3月期				2024年3月期 4Q累計	2025年3月期 4Q累計	前四半期比 増減	前年同期比 (累計) 増減
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
提携合併証券(JV)	268	274	230	452	405	312	418	250	1,226	1,387	-40.2%	13.1%

- (1)東海東京グローバル・インベストメンツは、主力のファンド投資が期待通りのパフォーマンスを確保。政策投資の株式関連収益が積み上がり、年度累計で貢献。
- (2)デジタル戦略の主な進捗状況 ～複数の企業グループとのアライアンス協議が具体的に進捗中
- ①CHEER証券：4/1付でTTデジタルプラットフォームを統合。管理部門・システム部門の人員効率化によるコスト削減を図るほか、スマホ証券事業と職域領域事業の効率的な連携により、顧客基盤拡大を推進予定。
- ②お金のデザイン：当社持分を33.4%に引き上げ、経営改革とビジネスモデルの進化等により3Qより黒字化。2023年12月の東海東京アセットマネジメントの完全子会社化により、資産形成層向けのロボアドに加え、富裕層向けのファンドラップの提供により、運用資産の純増額を順調に積み上げ。
- (3)デジタル事業の業績 ～不採算事業の整理に着手(事業の選択と集中)
- ①TTデジタルプラットフォーム：デジタル商品券事業の競争激化により事業撤退(ソフトウェア除却)を決定。
- ②Hash DasH HD：事業進捗に鑑み、ソフトウェアとのれん(将来の超過収益力)を減損

グループ各社別損益状況(連結)

(単位:百万円)

	2024年3月期				2025年3月期				2024年 3月期 4Q累計	2025年 3月期 4Q累計	前四半期比 増減	前年同期比 (累計) 増減
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
東海東京証券	3,736	3,928	3,671	5,730	4,925	3,004	4,748	1,034	17,067	13,713	-78.2%	-19.7%
提携合併証券(JV)	268	274	230	452	405	312	418	250	1,226	1,387	-40.2%	13.1%
東海東京グローバル・インベストメンツ	164	254	-14	1,189	199	-276	572	697	1,592	1,192	21.9%	-25.1%
丸八証券	169	211	140	246	238	30	216	114	768	599	-47.2%	-22.0%
保険(ETERNAL、メビウス)	168	241	209	206	169	224	187	239	825	820	27.8%	-0.6%
M&A※1	-60	125	67	-40	-7	-5	-0	-	91	-13	-	-
デジタル(子会社+持分法損益)※2	-823	-736	-792	-817	-976	-1,043	-796	-804	-3,169	-3,621	-	-
その他	379	-45	-300	-37	938	-779	295	588	-3	1,043	99.3%	-
連結経常損益計	4,004	4,252	3,210	6,930	5,893	1,467	5,640	2,118	18,397	15,120	-62.4%	-17.8%

※1 2024年3月期まではピナクルを含む。2025年3月期1Q はTTソリューション(旧 ピナクルTTソリューション)とマフォロバ、2025年3月期2Q及び3Qはマフォロバのみ計上

※2 CHEER証券、TTデジタル・プラットフォームの経常損益およびお金のデザイン、Hash DasH Holdings、Digital Platformerの持分法投資損益を合計

資金・資産純増に向けた取り組み ～市況変動の中においても継続して資産純増を達成

(1)東海東京証券

- ・ウェルス：プライベートアセットを含む新規投資信託の提供や証券担保ローンによる資金ニーズを捉えるなど、他社預け替えを含め、順調に基盤を拡大中。
- ・リテール：ゴールベースアプローチの提案、及びポートフォリオ資産の純増を推進。セカンドライフを目標に置いた計画的な資産取崩しを取り組んだ新規投信の販売も好調。
- ・IFA：富裕層顧客を中心に、外債を主軸とし、外貨資産の積み上げに注力。

(2)JV7社

- ・7社全社にて純増達成。ポートフォリオ提案営業を展開し、投資信託と債券を中心に、新規資金と資産の純増を拡大。

資金・資産導入推移(個人)

(単位:百万円)

	2024年3月期				2025年3月期				2024年 3月期 累計	2025年 3月期 累計	前四半期比 増減	前年同期比 (累計) 増減
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
入金	75,249	87,104	87,286	113,735	110,054	122,461	108,775	108,829	363,376	450,121	0.0%	23.9%
出金	81,572	68,996	84,848	93,314	87,459	84,386	97,943	84,330	328,731	354,119	-13.9%	7.7%
合計(入金-出金)	-6,323	18,108	2,438	20,420	22,595	38,075	10,831	24,498	34,644	96,002	126.2%	177.1%
入庫	49,349	39,710	38,407	43,127	34,913	44,413	33,981	36,797	170,595	150,106	8.3%	-12.0%
出庫	10,702	15,682	16,356	22,149	18,380	40,844	28,394	18,912	64,889	106,531	-33.4%	64.2%
合計(入庫-出庫)	38,647	24,028	22,050	20,978	16,533	3,569	5,587	17,884	105,705	43,575	220.1%	-58.8%
東海東京証券 純増	32,323	42,136	24,489	41,399	39,129	41,645	16,419	42,383	140,349	139,577	158.1%	-0.5%
提携合併証券 純増	-1,043	11,856	11,386	19,681	28,426	57,289	25,911	39,044	41,880	150,671	50.7%	259.8%
丸八証券 純増	-1,182	-698	-99	-1,241	1,103	48	-854	-507	-3,221	-211	-	-
グループ合計	30,098	53,294	35,777	59,838	68,658	98,983	41,475	80,919	179,008	290,037	95.1%	62.0%

預かり資産推移

(単位:億円)

	2023/3	2023/6	2023/9	2023/12	2024/3	2024/6	2024/9	2024/12	2025/3
株式	37,119	41,450	42,462	43,002	49,356	48,906	45,822	48,280	45,615
外国株	1,951	2,479	2,601	2,744	3,309	4,003	3,549	4,086	3,361
東海東京証券 国内株	35,168	38,970	39,861	40,257	46,047	44,902	42,272	44,193	42,254
債券	13,378	13,689	13,869	14,253	14,661	15,147	16,003	16,623	17,058
外債	5,285	5,476	5,398	5,654	5,943	6,265	6,372	6,803	7,055
東海東京証券 国内債	8,093	8,213	8,470	8,598	8,718	8,881	9,630	9,820	10,002
投信	13,406	14,353	14,366	15,007	16,240	16,767	15,998	16,658	15,603
その他	597	764	803	773	875	909	904	975	875
東海東京証券 計	64,503	70,258	71,502	73,037	81,134	81,730	78,728	82,537	79,153
丸八証券	1,930	2,188	2,245	2,253	2,667	2,754	2,524	2,716	2,490
ワイエム証券	3,252	3,611	3,669	3,732	4,101	4,253	5,342	5,685	5,041
提携 浜銀TT証券	5,988	6,625	6,749	6,871	7,608	7,966	7,714	8,251	8,137
合併 西日本シティTT証券	3,347	3,616	3,682	3,780	4,389	4,533	4,315	4,552	4,298
池田泉州TT証券	1,866	2,125	2,258	2,348	2,654	2,822	2,795	3,046	2,977
ほくほくTT証券	2,301	2,491	2,533	2,521	2,816	2,951	2,791	2,944	2,950
とちぎんTT証券	1,479	1,611	1,645	1,667	1,813	1,852	1,766	1,854	1,747
十六TT証券	1,976	2,128	2,149	2,163	2,396	2,513	2,380	2,559	2,419
提携合併証券 計	20,211	22,211	22,688	23,085	25,779	26,895	27,108	28,895	27,571
グループ 総計	86,646	94,659	96,438	98,380	109,590	111,390	108,371	114,161	109,227

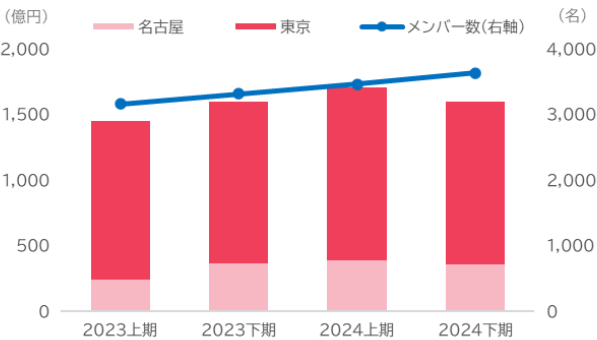
ウェルスマネジメントカンパニー



- ・ストックビジネスの収益増(前年比50%/8億円増)
- ・安定収益比率の拡大(比率38%/前年から7p増)
- ・オルクドールメンバーの増加 / 資産導入の拡大

【オルクドール 資産導入・メンバー数(2024年度)】

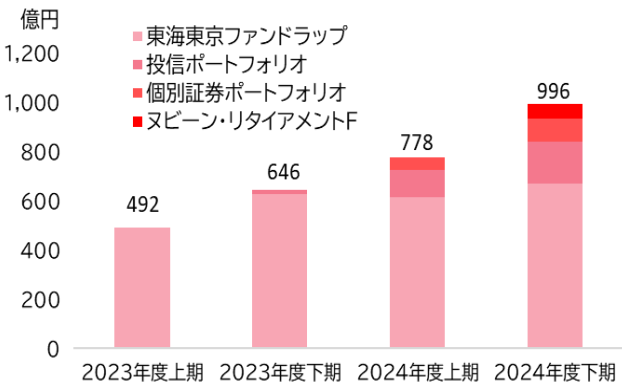
3,302億円(前年比8%増) 3,631名(前年比10%増)



リテールカンパニー

- ・ファミリーポートフォリオ・マネジャーとしてゴールベースアプローチ提案を展開。
- ・ライフサイクル・資金計画に沿う新ファンドを順調に販売

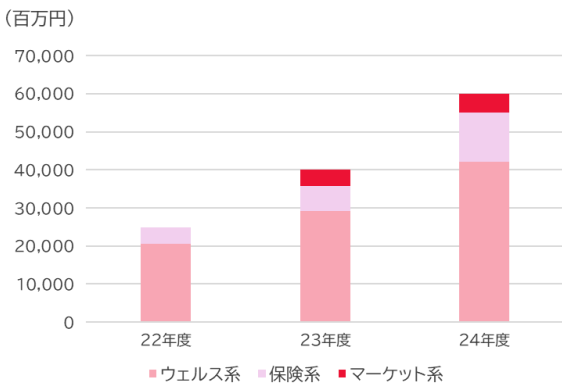
【ポートフォリオ残高推移】



IFAカンパニー

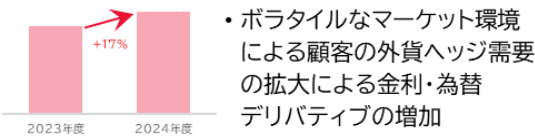
- ・資産純増は、富裕層顧客(ウェル系)を中心に着実に増加。
- ・稼働外務員数も増加し、ビジネス基盤も拡大。

【資産純増の推移】



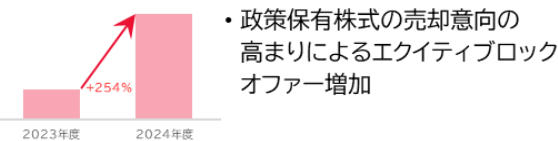
グローバル・マーケットカンパニー

【金利為替デリバティブ全社収益推移】



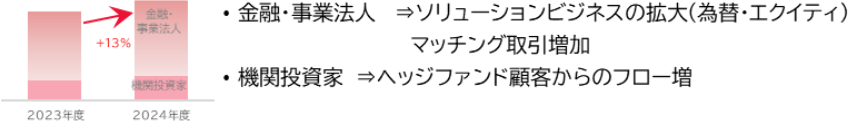
- ・ボラタイルなマーケット環境による顧客の外貨ヘッジ需要の拡大による金利・為替デリバティブの増加

【エクイティブロックオファー約定金額推移】



- ・政策保有株式の売却意向の高まりによるエクイティブロックオファー増加

【法人営業収益推移】



- ・金融・事業法人 ⇒ソリューションビジネスの拡大(為替・エクイティ)マッチング取引増加
- ・機関投資家 ⇒ヘッジファンド顧客からのフロー増

投資銀行カンパニー

- ・リテール債引受額 過去最高
- ・過去最大規模のIPO 主幹事案件実現
- ・TOBエージェント件数、過去最高(6件)

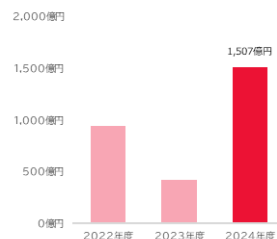
2025年3月期通期(4～3月)	順位
債券総合引受額ランキング	6位
普通社債引受金額	6位
IPO引受金額ランキング	11位
IPO引受社数ランキング	11位

提携合併証券

【個人】

- ・ポートフォリオ提案の推進により投信販売が堅調
- ・通期資産純増は1,506億円と過去最高

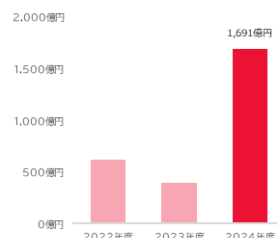
【資産純増
(個人)推移】



【法人】

- ・金利のある世界に入り債券販売が好調
- ・通期営業純増は前年度比4.3倍の1,690億円に急拡大

【資産純増
(法人)推移】



デジタル子会社 / 関連会社

事業の選択と集中を踏まえ、不採算事業の整理や減損処理を進めつつ、注力分野へ投資実行。

【CHEER証券】

- ・ゆうちょ銀行、TEPCO i-フロンティアズ(東京電力グループ会社)との広告配信による連携を実施中
- ・StockPoint for CHEER証券「モッピーポイント」等との連携開始

【お金のデザイン】

- ・東海東京ヌビーン・リタイアメントファンド 運用開始
- ・THEO「NISA調整機能」リリース
- ・運用資産の純増額を順調に積み上げ、黒字化へ

保険代理店ビジネス

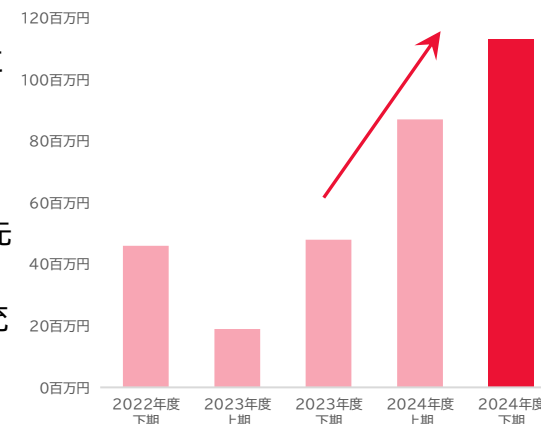
【ETERNAL 営業利益推移】

【ETERNAL】

- ・売上高・営業利益ともに過去最高

【メビウス】

- ・東京事務所開設、協業先の拡大(3社追加)
- ・コールセンター機能拡充に伴い、新オフィス開設(大阪難波)



ベンチャーキャピタル

【東海東京インベストメント】

- ・GP投資とトラック実績重視のLP出資をバランスよく推進。
- ・2025年3月期は、バイアウト案件のEXITが奏功、過去最高益を計上。

海外子会社

【東海東京証券 香港】

- ・マーケット部門と協働し、オフショア機関投資家による日本株ブローカレッジ・ビジネスを強化。

【東海東京シンガポール】

- ・ジャパン・フェニックス・ファンド(日本株投資)の運用残高が大幅に伸長。

戦略・ビジネスアップデート

- ・ 中期経営計画 “Beyond Our Limits ” ～異次元への挑戦
- ・ 戦略①金融力の強化
- ・ 戦略②異次元への挑戦

2

目指す姿

「誇り」と「憧れ」を感じる企業グループ

行動指針

“Social Value & Justice”
comes first

よりよい
社会に

凡事徹底

わくわく

目指す地点

異次元の世界
“New World”

安定収益
構造

収益力の
強化

金融力の強化

生産性
向上

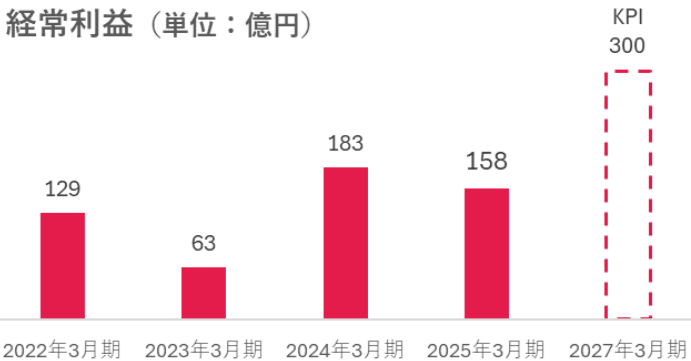
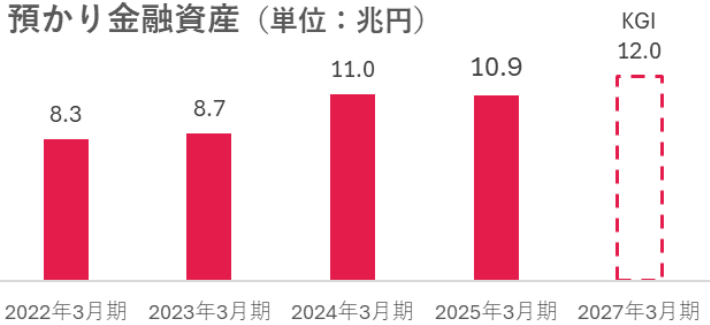
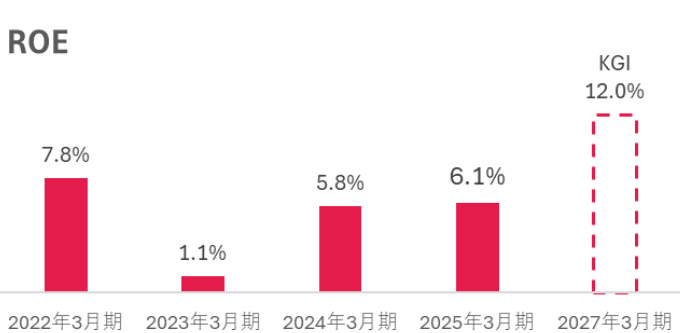
異次元に向けた
重点施策

Digital
New
World

Powerful
Partners

New
Bonanza

グループ
KGI

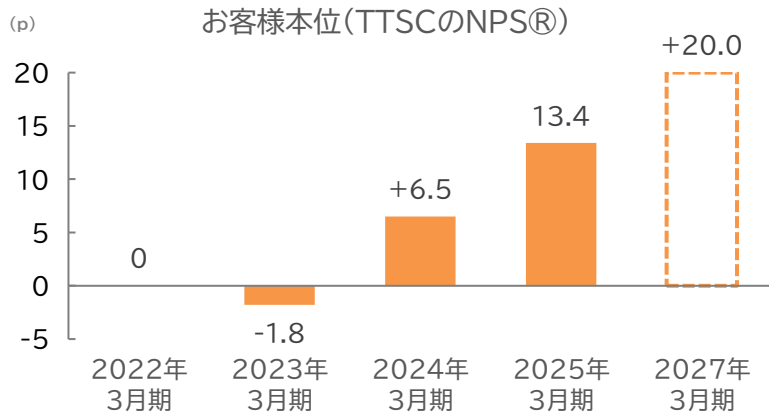
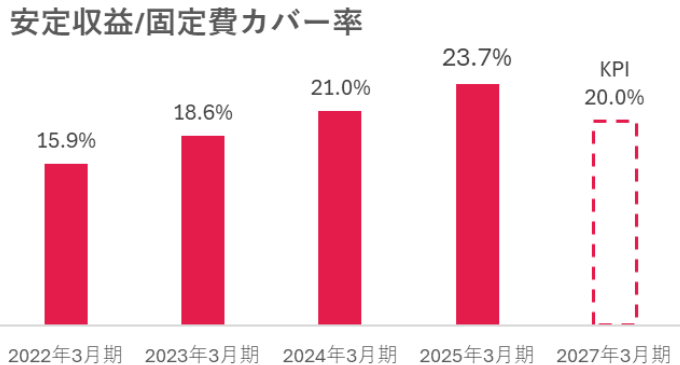


グループKGI & 金融力の強化

- ・第4四半期業績を反映し、ROEと金融力の強化に係る経常利益は苦戦
- ・資産管理型営業の拡充により、安定収益と預かり金融資産は順調に拡大
- ・今後の主要戦略(次葉以降)の推進により、中期経営計画目標を目指す

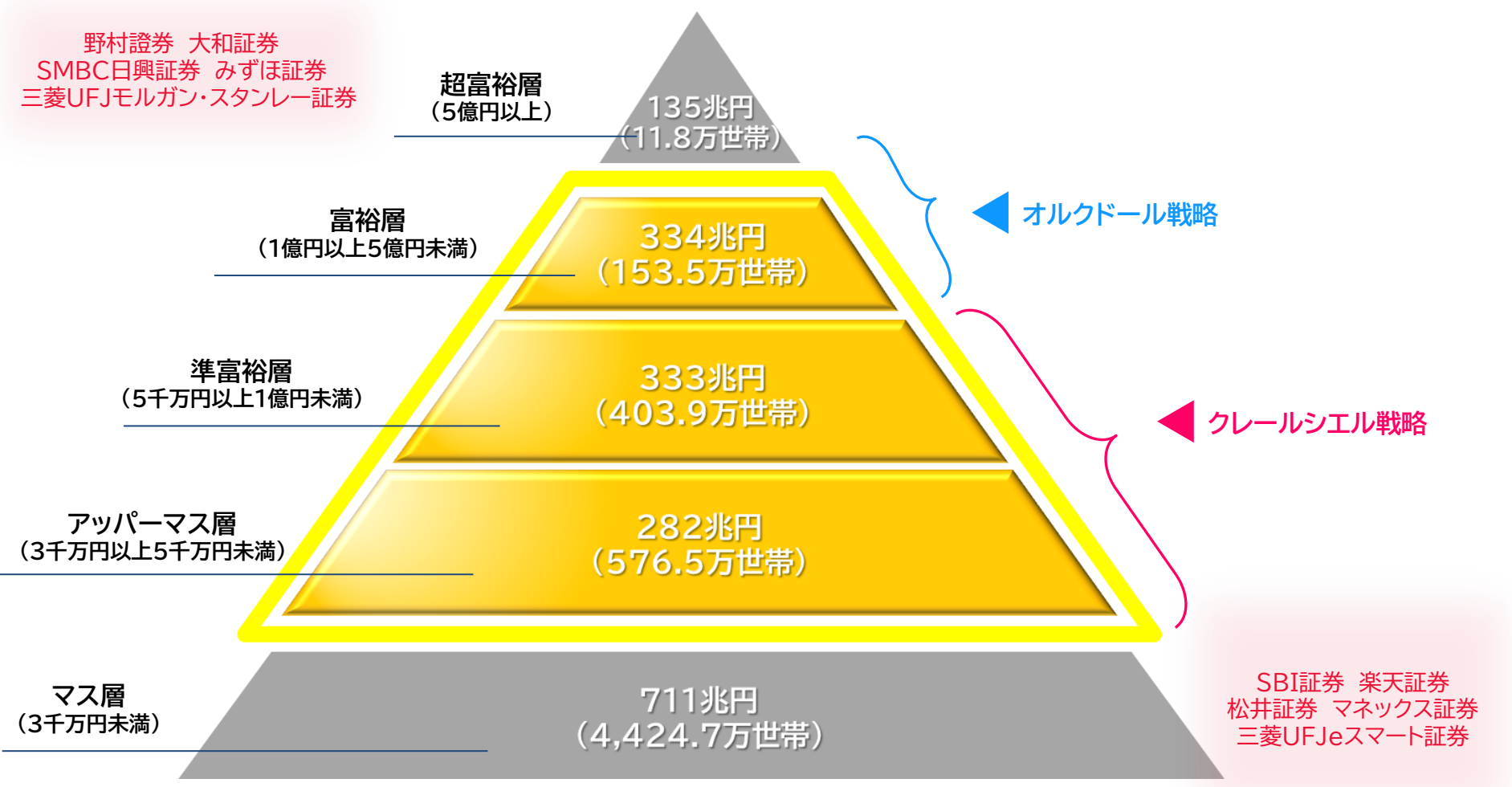
財務
KPI

金融力
の強化



東海東京証券は「R&I顧客本位の金融販売会社評価」において、初めて「SS」の評価を取得

他社に先駆け、未確立の『黄金の台形マーケット』における勝利のビジネスモデルを構築





「専門性」と「人間性」を兼ね備えたリレーションシップ・マネジャー(RM)と、唯一無二のオルクドール・サロンをベースに、お客様の豊かさをお手伝いする、金融 / 非金融のサービス・おもてなしをご提供

オルクドール・サロン (名古屋)



オルクドール・サロンTOKYO (日本橋)



オルクドール・サロンAOYAMA



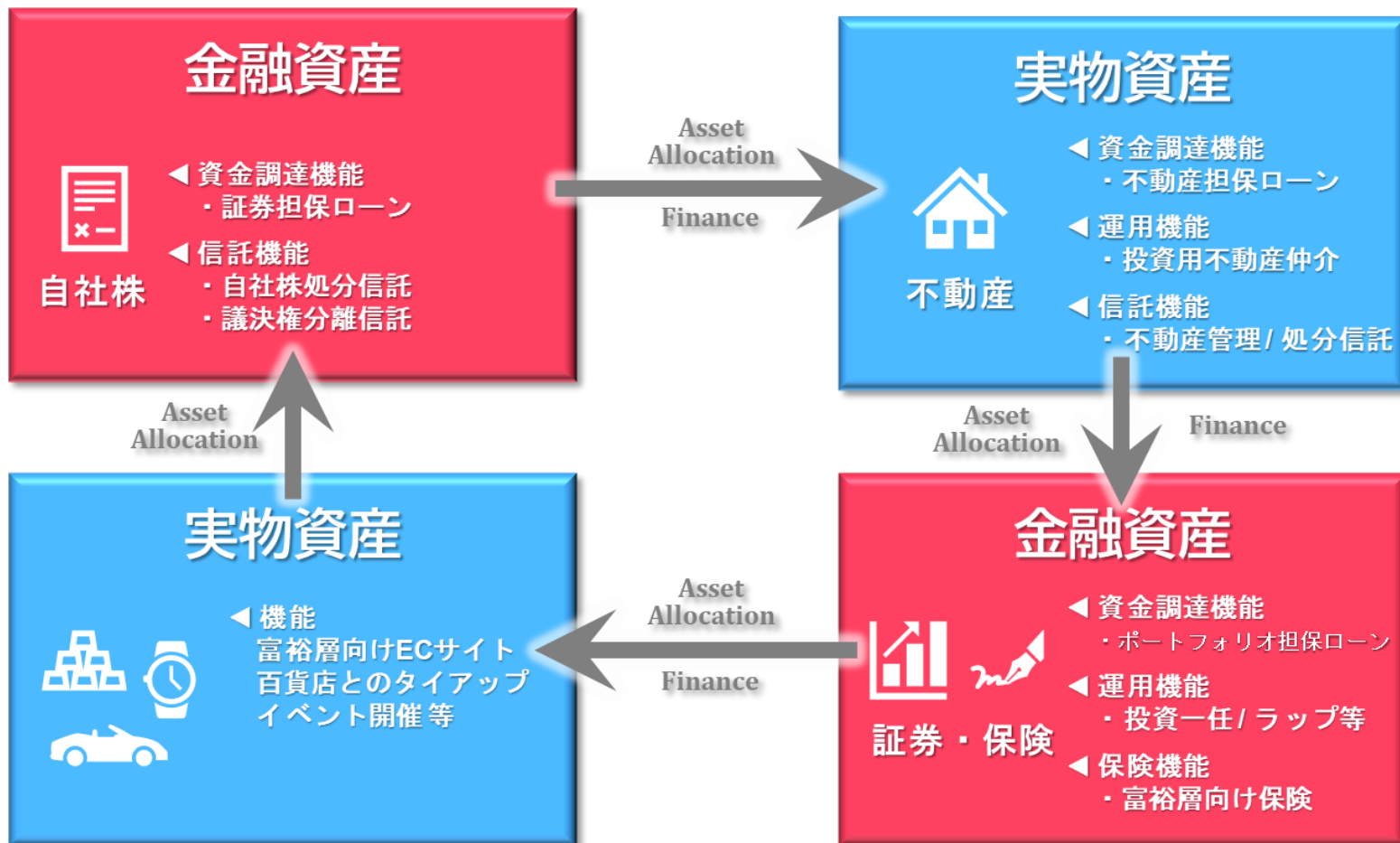
金融サービス

非金融サービス



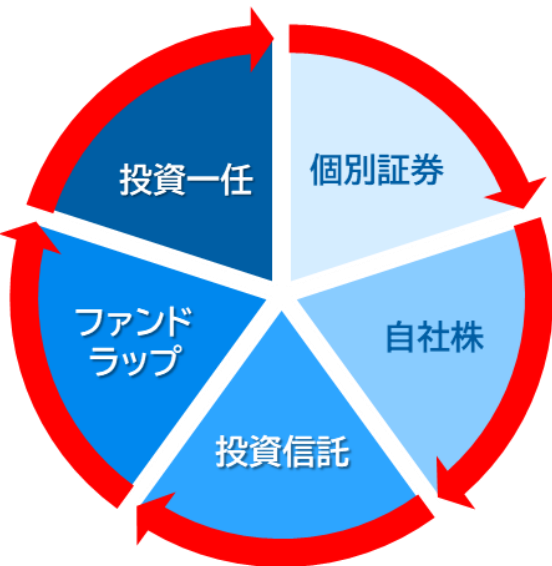
『オルクドール戦略』のコンセプトはそのままに、新たな取り組みとして、お客様の総資産を対象としたアセットアロケーションの提案とファイナンス機能の強化により、お客様の資産の最適化・最大化を目指す。

お客様の総資産





米国で主流のUMA口座(総合資産管理口座)による運用スタイルを国内金融機関で初めて提供予定
顧客資産の一元管理と、RMIによるOne-Stopサービスの提供を実現



オルクドール 総合資産管理口座
(Unified Managed Account)

■ ソサイエティサービス

オーナー間の交換の場の提供
子女教育、留学支援サービス
ECの展開
ワインシャトーと共同でワインファンド
設定
医療支援サービス

■ 富裕層向け一任サービスの拡充

投資信託、ETF、個別銘柄、プライベート
アセットを含むアセットアロケーション
サービスの導入

■ 運用資産管理システムの導入

運用資産の全部・部分のポートフォリオ
管理と税務管理が可能なシステム導入

■ 経営権・資産移転サービスの提供

資産管理会社と運用資産を組み合わせた
資産移転モデルの導入
世代間での株式移転サービス
証券担保ローン
ポートフォリオ担保ローン・保険
Powerful Partnerからの証券担保
ローンの提供(導入予定)

■ 不動産

不動産管理信託(導入予定)
不動産売買仲介
不動産担保ローン

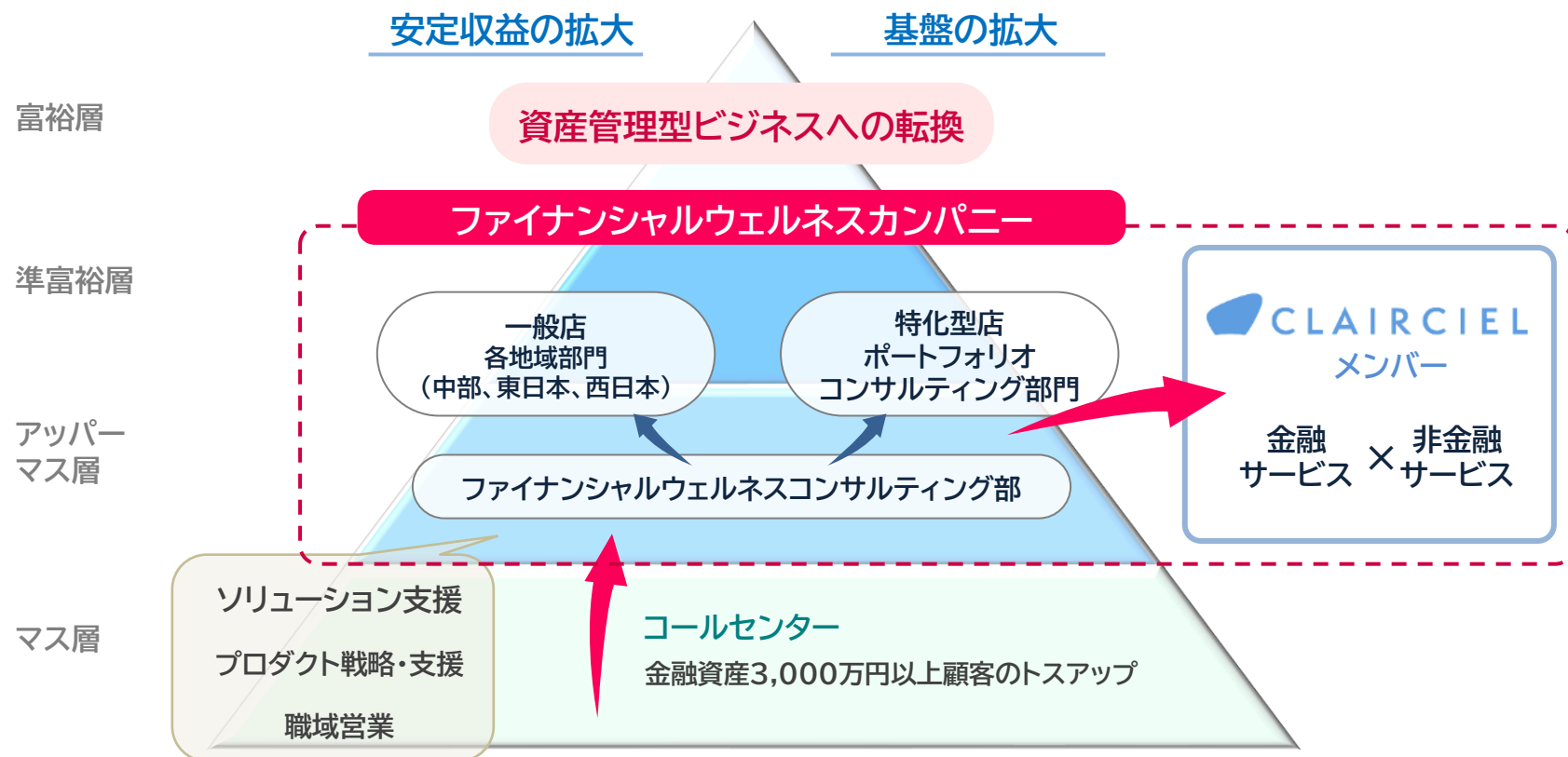
■ 投資銀行サービス

M&A、IPO

RMIによるOne-Stopサービス



- ・サテライト資産を対象としたビジネスに加えて、資産管理型ビジネスへの転換を推進。
- ・基盤の拡大に向け、特にポートフォリオ提案特化型店舗を4店設置。
- ・コールセンターでは金融資産3,000万円以上のお客様を対面営業へトスアップする取り組みを開始。
- ・CLAIR CIELメンバーシップを新設。

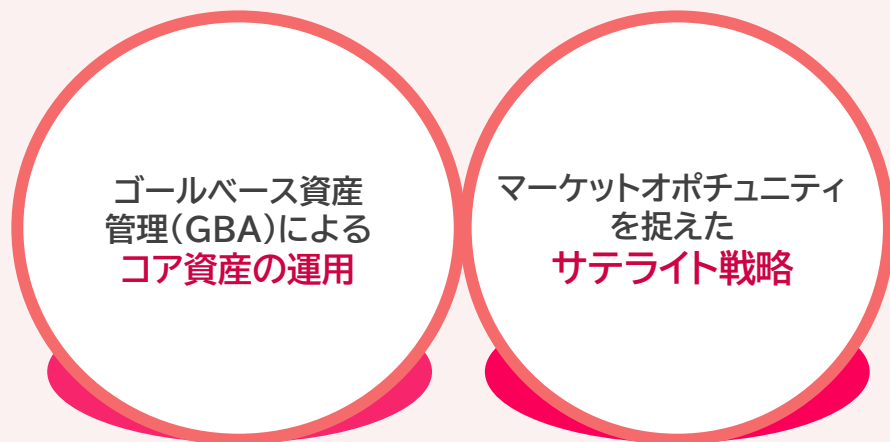




準富裕層 アッパーマス層 中小企業オーナー

金融サービス

コア・サテライト



ポートフォリオ資産
保有のお客様

非金融サービス

メンバーシップ 限定サービス

コト体験
オリジナルイベント・地域イベント

自社イベント
コンサート・旅行

暮らしのサポート

提携サービス紹介

ポートフォリオ

ライフサイクル
プロダクト

財産診断サービス
ファミリー戦略

ファイナンシャル
プランニング
ツール導入

ファイナンス
証券担保ローン

ソリューション
保険・不動産

ネット&コール

DX、AI活用

ブランドメッセージ

あなたの明日が、晴れわたるように。

さまざまなことが変化し、将来の予測もむずかしい今の時代。
これからの日々を、安心して、
いきいきと暮らしていくために何が必要でしょうか。

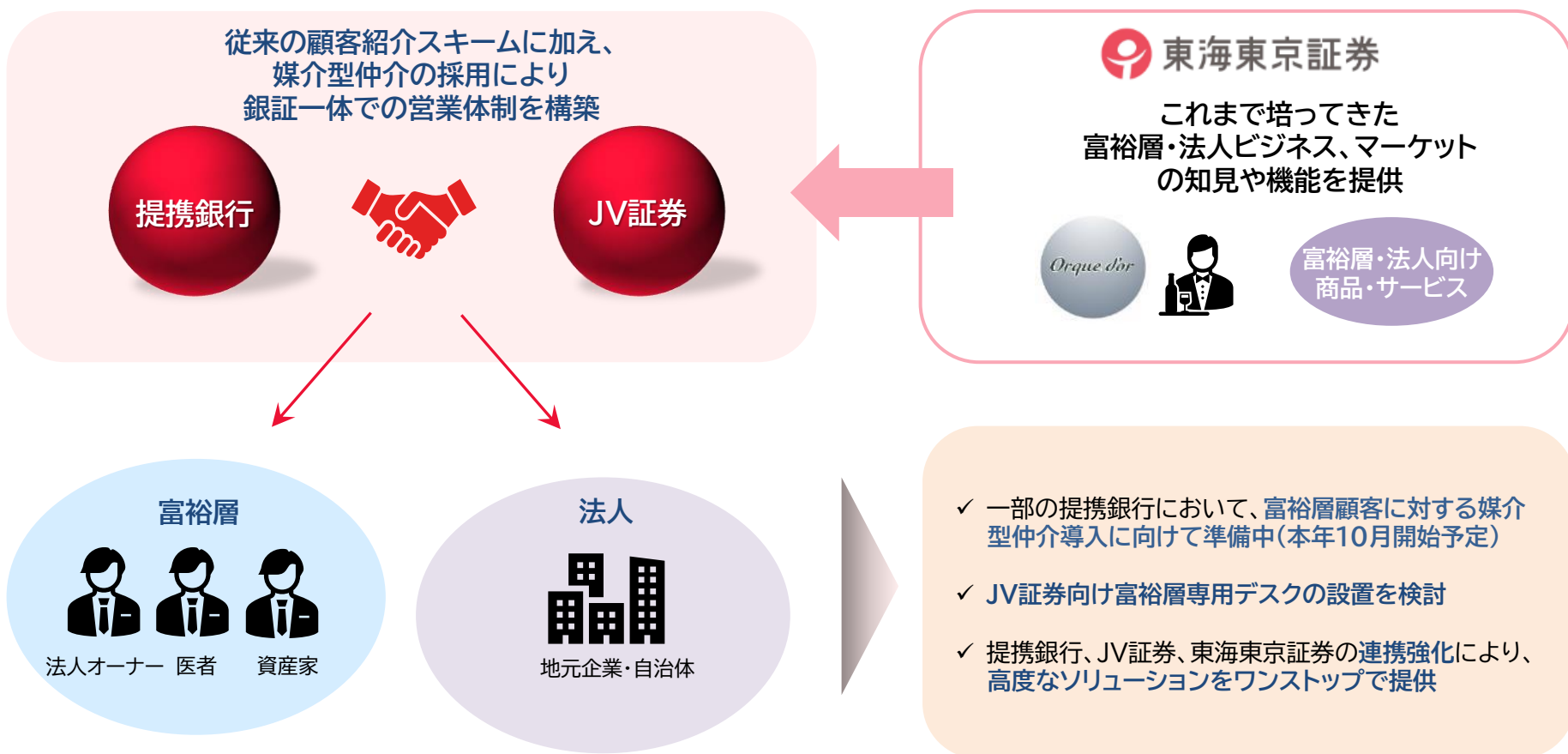
私たちがお届けしたいのは、本当の豊かさを感じられる暮らし。
クレールシエル独自のサービスで、
お客さまのさまざまな期待にお応えしたいと考えています。

金融に関することはもちろん、毎日をもっと楽しくするイベント、
困りごとを解決する情報など、数多くのサービスをご用意しています。

“明るい空”という意味を込めたその名前のように、
お客さまの心がさわやかに晴れわたるような
暮らしの実現に貢献していきます。

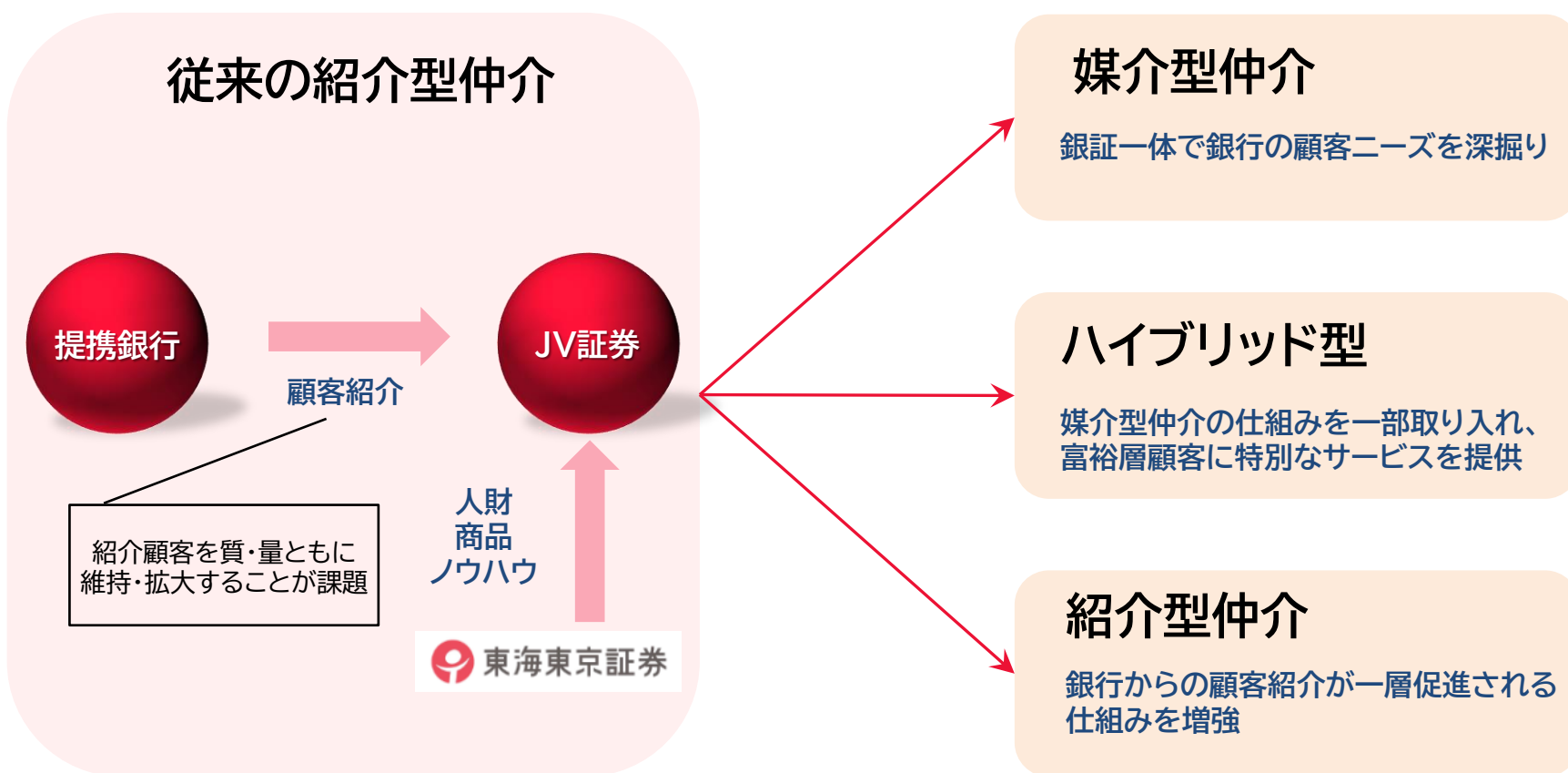
銀証連携から銀証一体へ ～富裕層・法人ビジネスの強化～

- ・提携銀行と地元企業・法人オーナーとの強固なリレーションを活かし、銀証一体でビジネス拡大に注力
- ・新たな富裕層・法人向けサービスの展開により、JVビジネスのポテンシャルを最大限発揮



銀証連携から銀証一体へ ～ビジネスモデルの進化～

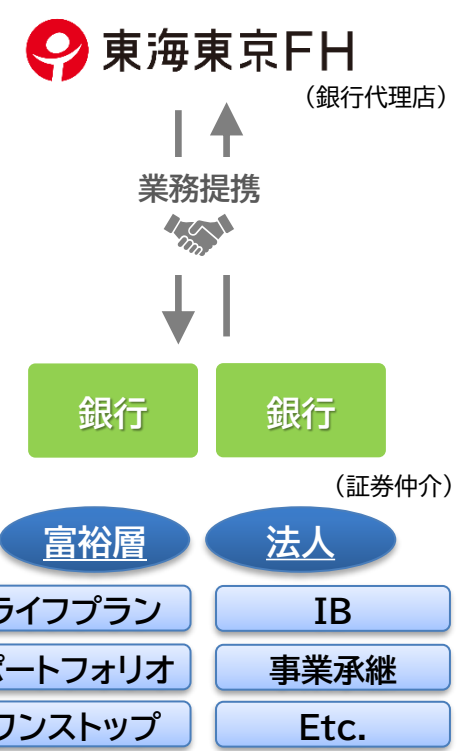
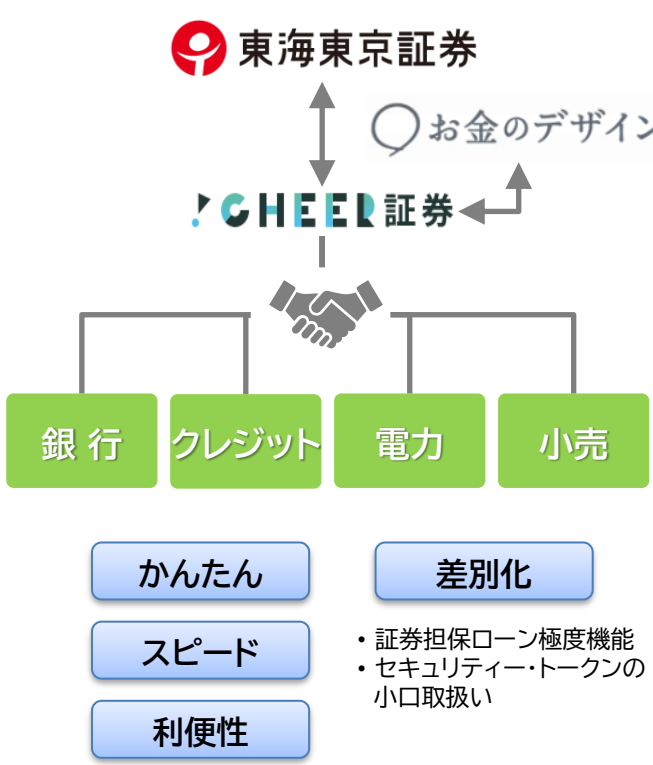
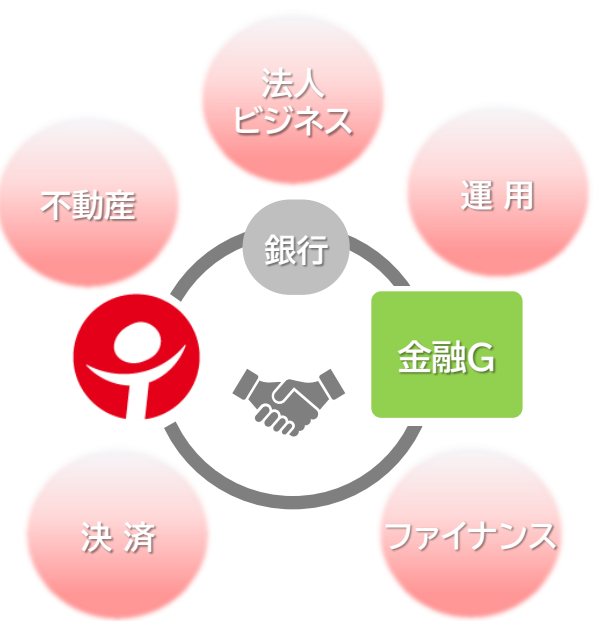
- ・各提携銀行の経営方針や事業環境に応じて、JVモデルを最適化し、提携シナジーの飛躍的な拡大を目指す
- ・従来の紹介型仲介をベースに、媒介型仲介やハイブリッド型など柔軟にビジネスモデルを設計



Super Tie Up
-新しい金融機能の提供-

DX Tie Up
-B to B to Cモデルの確立-

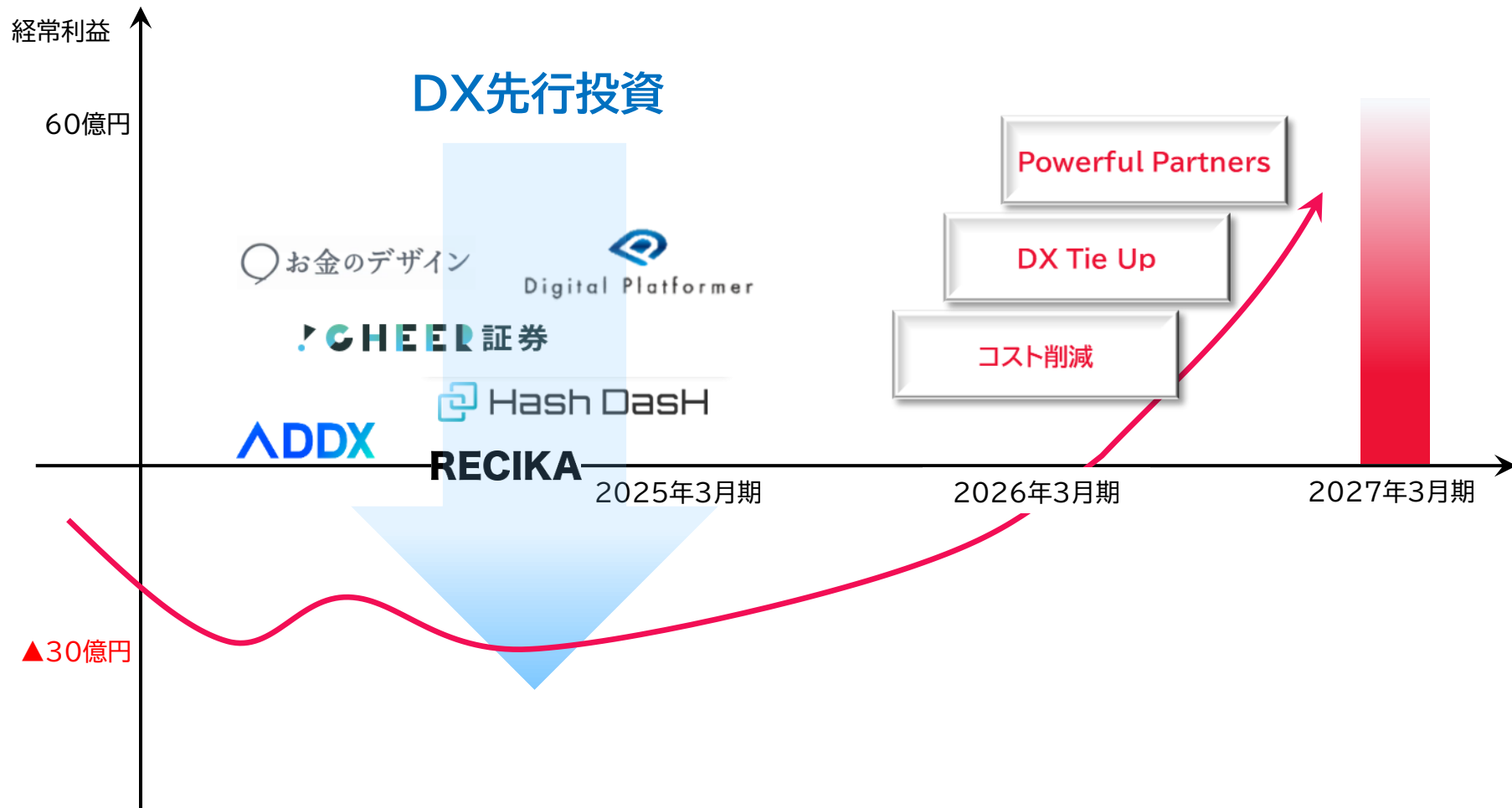
Bank Tie Up
-対面ビジネスにおける機能補完-



提携条件:

- ① ビジョンの共有(「Beyond The Bank」を目指して)
- ② シナジーの最大創出
- ③ 総合的な提携

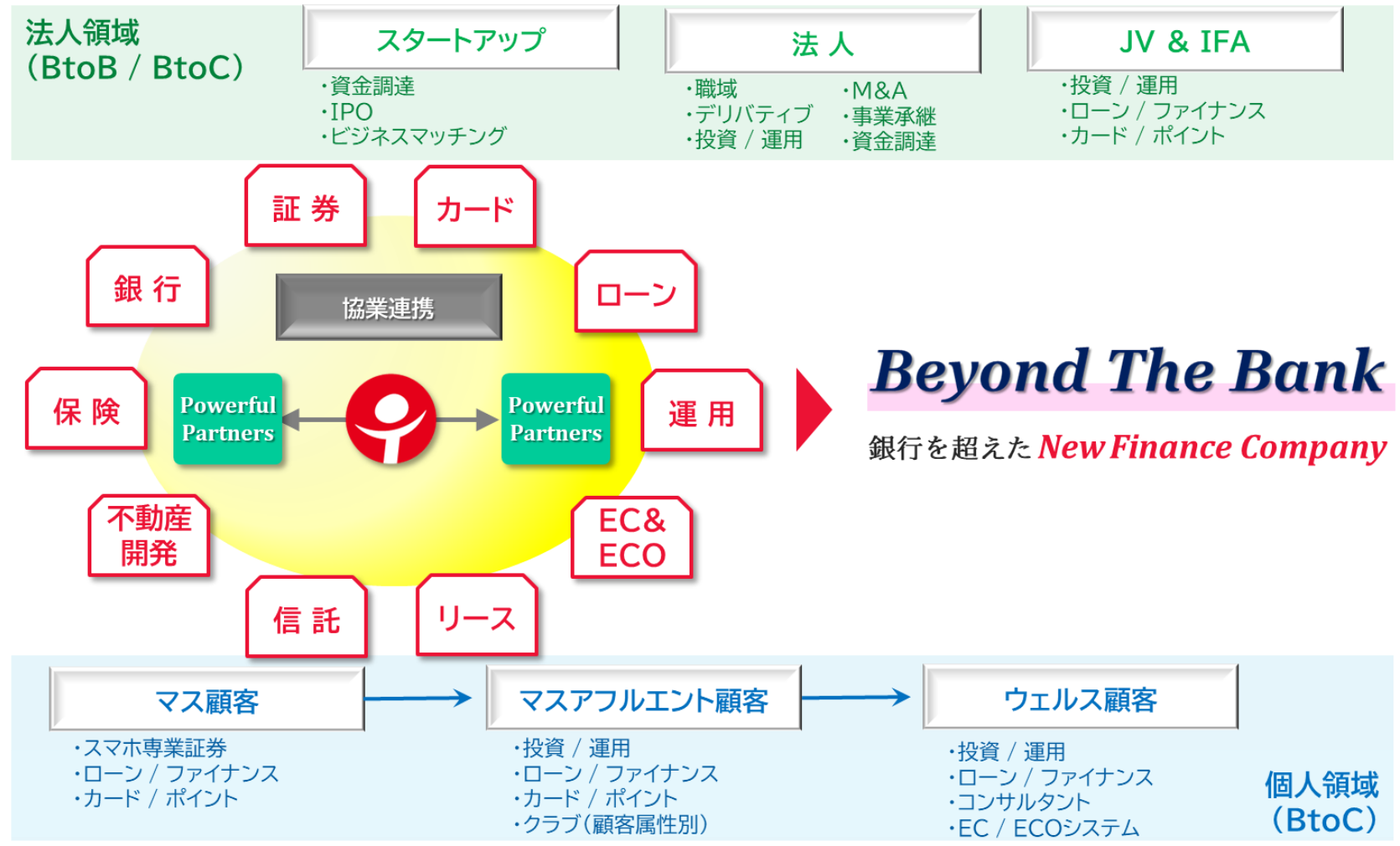
2026年3月期の位置付け:DX先行投資期を終え、新たなフェーズ「収穫」「利益の創出」期へ



戦略②異次元への挑戦

Super Tie Up + Bank Tie Up + DX Tie Up

各種Powerful Partnersとの3つのTie Upモデルを構築し、対面・非対面の各サービスを提供。
ファイナンス機能を高め、個人および法人にワンストップで総合金融サービスを展開し、銀行を超えた
New Finance Companyとしてユニークなポジションを目指す





異次元に向けた重点施策

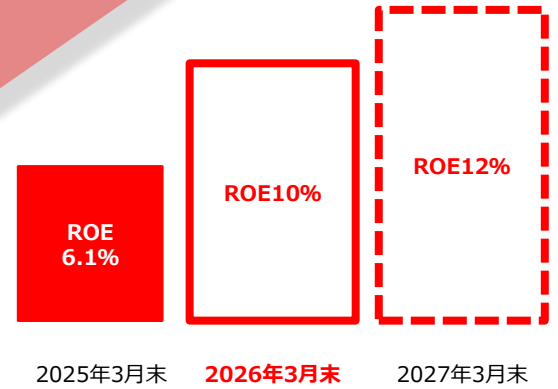
- ✓ Powerful Partnersとの提携モデル
- ✓ ファイナンス機能を高めた総合金融サービスの確立「Beyond the Bank」

グループ各社の
最適な資本アロケーション

- ✓ 余剰資本の集約
- ✓ 資本余力を企業価値向上に資する投資へ
- ✓ 利益配当を主体とした株主還元の充実

金融力の強化

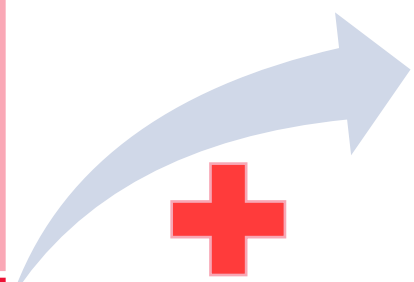
- ✓ 各社/各カンパニーROE目標達成
- ✓ 事業特性に応じた収益増強・コスト削減



連結自己資本の内訳



(2025年3月末)



- 配当收受
- 子会社再編等による資本回収
- 政策保有株式の売却などにより、資本余力を拡大

断捨離

断捨離PJ:2023年に開始以降、262件審議（2025年3月末）
圧縮効果:約76億円(総額)

新規にAI戦略室を設置。

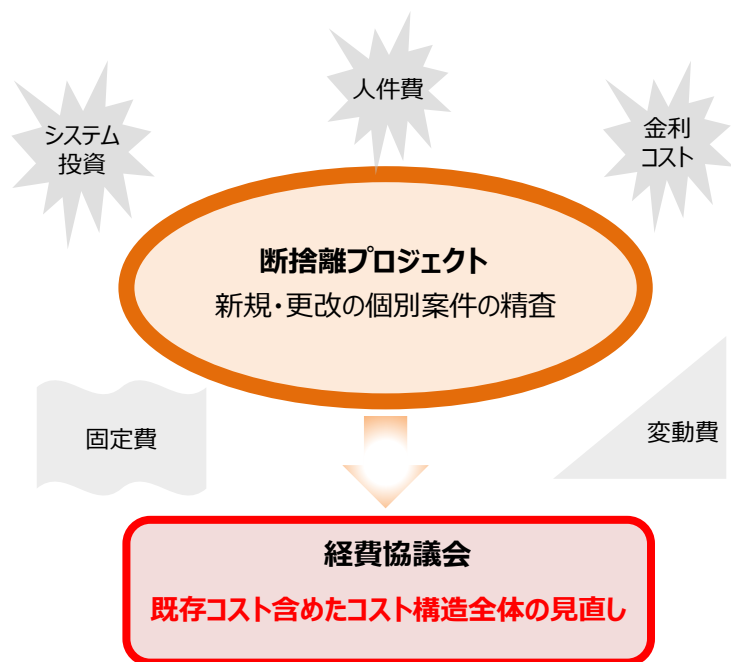
～社員へのAI普及のため、AIスクールを開催 ⇒既存ビジネスの効率化推進。

～最先端技術を活用したビジネス創出の可能性を検討中。

AI活用

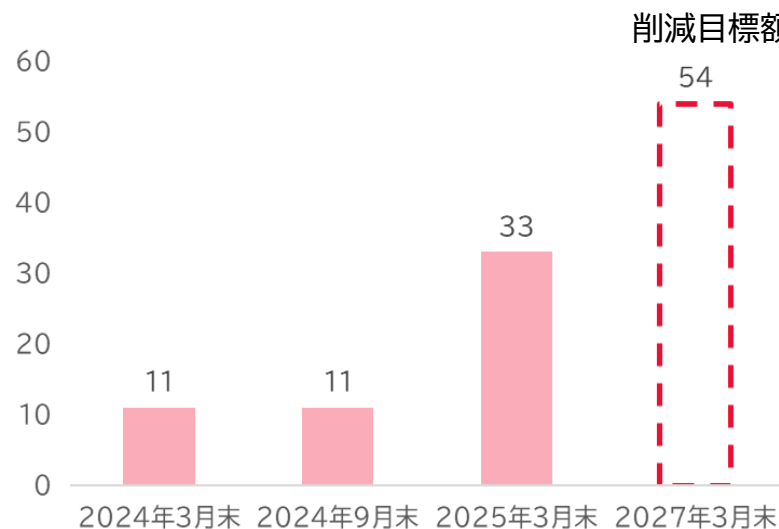
資金効率化

- ・資金調達コストに鑑みた運用資産利回りの引上げ(利ザヤの確保)
- ・非効率資金の見直し(予防的な流動性資金の減額、政策保有株式の縮減の促進)



政策保有株式縮減

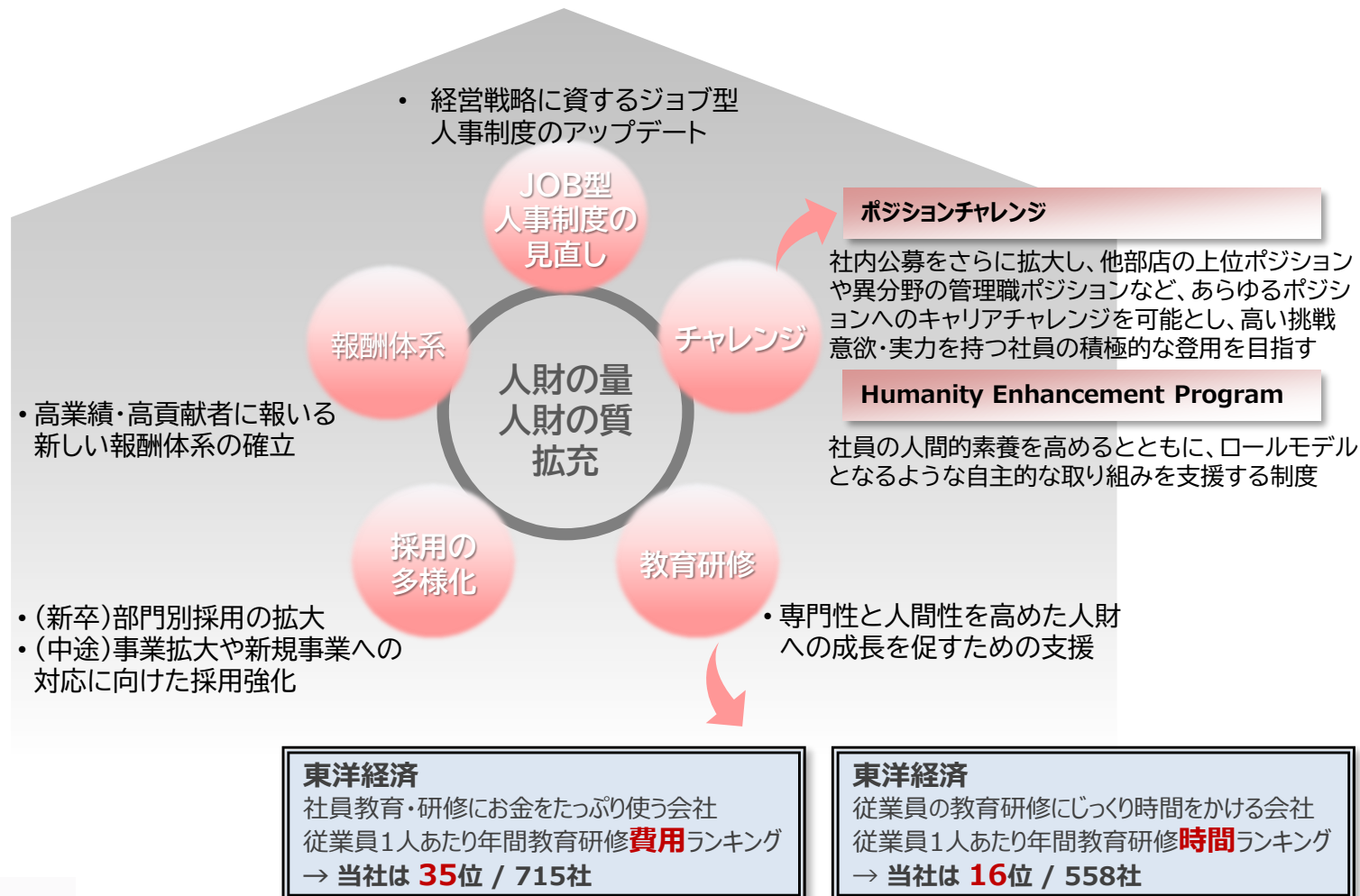
～2023年9月末時価(保有総額107億円)に基づく削減実績



経営戦略

- ✓金融力の強化
- ✓異次元に向けた経営戦略
- ✓“Social Value & Justice” comes first

人財戦略



2025年10月、東海東京フィナンシャル・グループは、誕生25周年を迎えます

イベント企画案

【お客様向け】

- ・25周年記念パーティ
- ・西洋美術展(お客様とコラボレーション)
- ・舞台「ハリー・ポッターと呪いの子」の鑑賞会
- ・ジブリパーク観覧

【株主向け】

- ・記念配当(今後、具体的に検討予定)

【従業員向け】

- ・エンゲージメント向上に資する企画を検討中

東海東京フィナンシャル・グループの2025年 広報展開



イメージキャラクター
藤井聡太 竜王・名人



イメージキャラクター
ヴァイオリニスト 葉加瀬 太郎氏



舞台『ハリー・ポッターと呪いの子』
特別協賛（一社協賛）

2025 MASTERS

報道ステーション

有働Times

THE TIME

TV番組提供